

九大フィルハーモニー・オーケストラ

第214回定期演奏会

ボロディン/歌劇「イーゴリ公」序曲
Borodin/ Prince Igor Overture

ラフマニノフ/パガニーニの主題による狂詩曲第2番
Rachmaninoff/ Rhapsody on a Theme of Paganini Op.43

ラフマニノフ/交響曲第2番
Rachmaninoff/ Symphony No. 2 in E-minor Op. 27

狂詩曲 作品 43
短調 作品 27

2025
6/12 Thu.

開演 19:00 (開場 18:00)

全席自由 1000 円 ※未就学児膝上鑑賞無料

アクロス福岡シンフォニーホール

※会場には車椅子席のご用意があります

車椅子席をご希望の方は「お問い合わせ」までご連絡ください

指揮

鈴木優人

Masato Suzuki

ピアノ独奏

松田華音

Kanon Matsuda

チケット

- ・チケットぴあ <https://t.pia.jp> Pコード:293-234
- ・アクロス WEB チケット <https://www.acrosticket.jp>
- ・アクロス福岡チケットセンター Tel:092-725-9112
- ・Zaiko (オンラインチケット) <https://zaiko.io>

主催: 九大フィルハーモニー・オーケストラ

共催: 福岡県、福岡市、(公財) アクロス福岡、(公財) 福岡市文化芸術振興財団

後援: 福岡市教育委員会、KBC、RKB 毎日放送、九大フィルハーモニー会

お問い合わせ: (広報) 杉尾:050-1809-2091

E-mail: qdaiphil@gmail.com

公式HP: <https://kyudaiphil.com>



九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成される日本でも有数の長い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在100名以上の部員が所属し、年2回の定期演奏会を目標に、精力的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の榊保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚 奉祝音楽会」にてベートーヴェン/交響曲第9番ニ短調「合唱つき」第4楽章の一部を演奏。一説に日本初演とされている。さらにはメンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」やハイドン(L.モーツァルト)/交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージック・アドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年には200回目を数える定期演奏会を開催し、同年、東京のサントリーホールにて特別記念演奏会を開催した。さらに、2022年には東京オペラシティにて、第2回東京特別演奏会を開催し、活動の場を広げている。また2024年には、先述の第九日本初演から100周年を記念して第九特別演奏会を開催。メンデルスゾーン/結婚行進曲、100年前に演奏した新編奉祝歌(第九第4楽章の一部替歌)、ベートーヴェン/交響曲第9番ニ短調「合唱つき」全曲を演奏した。定期演奏会以外にも、九州大学伊都キャンパス内の日本ジョナサン・KS・チョイ文化館での毎月のクラシックセッション(アンサンブル演奏)の開催や九大祭での演奏、幼稚園での創作音楽劇上演など、地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

指揮者プロフィール

鈴木優人 Masato Suzuki

バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ)
首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者/
クリエイティブ・パートナー、関西フィ
ルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、
アンサンブル・ジェネシス音楽監督。指揮者



©Marco Borggreve

としてNHK 交響楽団、読売日本交響楽団等と共演するほか、22年4月にドイツ・ハンブルク交響楽団に客演。鈴木優人プロデュース・BCJ オペラシリーズにおけるモンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》(2017)、ヘンデル：歌劇《リナルド》(2020/第19回佐川吉男音楽賞受賞)、歌劇《ジュリオ・チェーザレ》(2023)では、バロック・オペラの新機軸を打ち出した。2022年5月のグルック：歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》(勅使川原三郎演出)で新国立劇場に指揮者として初登場。24年2月に ORCHARD PRODUCE 2024にて鈴木優人&バッハ・コレギウム・ジャパン×千住博 モーツァルト《魔笛》を上演。本年2月には第2弾として杉本博司とのコラボレーションによるモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》が予定されている。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演するほか、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」などメディア出演も多い。録音はBCJ とのJ.S. バッハのチェンバロ協奏曲集 (BIS)、タメスティとのデュオ (Harmonia Mundi) の他、今年3月にはJ.S. バッハの平均律第1巻 (BIS) をリリース。作曲、編曲はもとより、バッハの消失楽章の復元も多数手がける。ブルーノート東京にも定期的に出演するなど、その活動に垣根はなく、各方面から大きな期待が寄せられている。東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回(2021年度)渡邊雄雄音楽基金音楽賞受賞。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。

X/ @eugenesusuzuki

Facebook & Instagram / masatosuzukimusic

ソリストプロフィール

松田華音 Kanon Matsuda

香川県高松市生まれ。4歳で細田淑子に師事、ピアノをはじめ。

6歳でモスクワに渡り、E.P.イワノワ、M. ヴォ
スクレセンスキー、E.ヴィルサラーゼ各氏に師事。
ロシア最高峰の名門、グネーシン記念中等(高等)

学校で学び、スクリャービン記念博物館より2011

年度「スクリャービン奨学生」に選ばれ、外国人初最優秀生徒賞を受賞し
首席で卒業。モスクワ音楽院に日本人初となるロシア政府特別奨学生として
入学、2019年6月首席で卒業。2021年モスクワ音楽院大学院修了。
2014年11月ドイツ・グラモフォンよりCDデビュー。2017年6月に2枚
目のアルバム「展覧会の絵」をリリースした。

オーケストラとの初共演は8歳。これまでにミハイル・プレトニョフ、ワレ
リー・ゲルギエフ、アンドレア・バッティストーニ、ピエタリ・インキネン、
秋山和慶、井上道義、円光寺雅彦、尾高忠明、小林研一郎、高関健、飯森範
親各氏の指揮の下、ロシア・ナショナル管弦楽団、マリインスキー歌劇場管
弦楽団、ブラハ交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、京都市交響
楽団、札幌交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共
演。

2020年12月には井上道義氏指揮NHK交響楽団と伊福部昭作曲リトミカ・
オスティナータを、2021年11月にはNHK音楽祭にて飯森範親氏指揮日本
センチュリー交響楽団とシチェドリン作曲ピアノ協奏曲第1番を演奏し、ど
ちらも全国放送され、高く評価された。最近では室内楽にも取り組むなど、活
動の場を広げている。

2018年かがわ21世紀大賞受賞。

公式HP：<https://www.japanarts.co.jp/artist/kanonmatsuda/>



©Ayako Yamamoto